

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	2870800824		
法人名	有限会社エム・アンド・エム開発		
事業所名	グループホーム リーベストラウム		
所在地	神戸市垂水区本多間2丁目34-4 (電話) 078-781-1283		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	平成19年10月23日

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地と商業地が混在する立地にあり、近くに公園、ショッピングセンター、喫茶店、和菓子屋等があるので、散歩や買い物等の外出機会も多い。また、5階建ての建物の2階3階部分にあり、1階では関連法人の役員である医師が医院を開業しているため、医療面でも相談しやすい体制にある。管理者と職員の間には良い信頼関係が築かれており、理念にも掲げられているように、利用者の尊厳が保たれながら暮らせるよう利用者一人ひとりの思いを大切に、言葉遣い、態度等に心を込めたケアに取り組んでいる。3階の利用者が外出するにはエレベーターの利用が必要であるが、エレベーターのドアは鍵で開閉される仕組みになっており、利用者が出られない思いや心理的な圧迫感が無いようにするためにも、改善に向け定期的に関係者で話し合う機会を持つことが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 運営理念をより分かりやすいものにする事や、理念が地域に理解されるための啓発の機会作りまた、介護計画の見直し等が課題として提案された。管理者をはじめ全職員で改善に向けて取り組みその成果も生まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 今回の自己評価については、各ユニットのリーダーが職員と話し合い纏めたが、管理者と職員の間でまだ十分話し合われていないので、話し合いの機会を持ち、今回の第三者評価も参考にしながら新たな気付きや課題を明確化して、その改善に向けて取り組んでいくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議は本人、家族のほか高齢者介護支援センター、地域の方もメンバーに加わり概ね2ヵ月に1回開催されている。そこでは、グループホームのあり方、地域での行事への参加などの活動報告また、家族や地域の代表から質問提案が話し合われここでの意見がホームの運営や認知症高齢者のケアにも活かされている。市の介護保険課や、ときには警察、消防の人にも参加を呼び掛けてはどうか。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 職員は家族の訪問時や電話での対話のなかで本音を言ってもらえるように気を配り、家族が知りたい事を把握するよう努めている。家族会とは別に個別面談の機会を設け、毎月家族に送っている手紙で暮らしぶりや健康状態、立て替え金の明細等々を報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し文化祭には利用者の作品を出品したり、精霊ながしの作品作りに協力し、また小学校の資源回収にも協力するなど地域で必要とされる活動にも参加し地域との交流に取り組んでいる。

【情報提供票より】(平成 19年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 10人, 非常勤 13人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての 2 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	約25,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(240,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	73 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯村医院、富森眼科医院、飯村歯科医院、舞子台病院、老人保健施設 舞子台
---------	-------------------------------------

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の第三者評価で理念の再検討が課題とされ、また介護保険法の改正を機に、よりわかりやすくするために「利用者の尊厳ある生活を家庭的な環境のもと地域住民との交流をはかりながら継続支援する」という理念につくりかえた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念を意識し共有するよう玄関に掲示すると共に、更に理解を深めるよう職員ミーティング等で日々のケアについて理念をベースに話し合っている。また、利用者と接する時には「尊厳」を大切に実践するために利用者を、認知症で何もわからないといった対応をしないよう、言葉づかいや態度に気をつけ、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、文化祭には利用者の作品を出品したり精霊流しの作品作りに協力し、また小学校の資源回収にも協力するなど、地域で必要とされる活動にも参加し地域との交流に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価結果を各ユニットのエレベーター前の見やすいところに配置し、家族、地域の人びと等に見て貰っている。そこで課題として挙げられた運営理念の見直しと地域への啓発、介護計画の見直し等について、全職員で改善に取り組み成果が見られる。今回の自己評価は各ユニットリーダーが職員と話し合いまとめたが、管理者と職員の間ではまだ十分話し合われていない。		管理者と職員の間で早急に話し合いの機会を持ち、新たな気付きや課題を明確にし共有して、その改善に取り組んでいくことが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族また高齢者介護支援センターの職員、地域の代表として自治会長や民生委員等がメンバーに加わり、概ね2ヵ月に1回開催されている。グループホームのあり方や地域での行事への参加等が話し合わせ、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。		時にはや警察、消防の人にも参加してもらい、ホームの取り組みを理解してもらったうえで防災等へのアドバイスを受けてはどうか。
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの情報提供も少ないが、ホーム側からの市への情報提供やかかわりも少なく、市との連携は十分とは言えない。		ホームだより(年1回程度発行)を市の担当窓口へ送ったり、運営推進会議への出席依頼、市内や区内のグループホームのネットワーク作りの提案等、ホーム側からの積極的な働きかけが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年3回開催している家族会後の個別面談時や訪問時に言われる本音に耳を傾け、家族の知りたい事を把握している。毎月家族に送っている手紙には日々の暮らしの様子など一言添え、また健康状態や医療機関の受診結果については電話、手紙や、訪問時に伝えている。また、金銭については立替払いとし、タクシー代等は事前に了解をえて全て領収書を添付して毎月報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、また、家族会とは別に個別面談の機会を設けたり、毎月送っている家族への手紙にも気のついたこと等積極的に言ってもらえるよう書き添えるなど、苦情等を気軽に言ってもらえる機会作りに取り組んでいる。最近苦情はないが、あれば本人、家族、職員等また、内容によっては主治医と話し合い、解決に向け取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のスキルアップのため、また利用者間と職員の関係性に配慮し利用者個別の担当制はとらず、ユニットごとの担当制を取っている。担当ユニットを変わる場合は利用者とのなじみの関係を完全に断ち切るのではなく、前担当のユニットへ行き用事を作って挨拶するなど利用者へのダメージを防ぐため自然な交流をこころがけている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任リーダーには新任リーダー研修、現任職員には認知症介護実践者研修や遊びリテラシー研修等、パート職員には認知症ケアの基礎研修等、段階に応じた研修機会を職員の希望を取り入れながら設けている。介護関係の情報誌を2誌購読し、情報の収集、共有にも努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県域の連絡会に加入している。市内、区内のグループホームとはネットワークはまだできていないので、キャラバンメイト活動を通じて区内のホームとの交流に取り組んでいこうとしている。北区や加古川市のグループホームとは見学を通じて情報交換や勉強会で助言をもらうなど職員のスキルアップに取り組んでいる。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には職員が利用者や家族と会い、生活されている様子を把握し、また家族の見学や、体験宿泊も取り入れて、スムーズに利用できるよう取り組んでいる。やむを得ず、急な利用となった場合には、家族の人に一緒に泊まってもらったり、食事に配慮するなどして、徐徐に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	絵の上手な人にはさりげなく花を前に置いて絵を教えてもらったり、散歩の時に花の名前を教えてもらったりしている。また、主婦だった利用者には調理の味付けや洗濯を一緒にしながら教えてもらうなど、共に暮らす関係づくりに取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>フェースシートや家族から、また利用者と職員が二人で入浴している時や散歩、買い物等の時に周りの景色を見ながらふと言われたことなどから一人ひとりの思いや意向を把握している。そして、把握した思いや意向を介護日誌に記録し情報を共有している。意志の疎通が難しい利用者では、家族に聞いたり、時々の変化をよく見て職員で話し合っ思いや意向を把握している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画はセンター方式の様式を活用し、本人や家族から生活歴などのバックグラウンドについての情報を積み重ね、利用者や家族の希望を取り入れ、かかりつけ医の意見も聞きながら職員間で話し合っ作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人、家族の直近の状況や希望をカンファレンスや申し送りの時に確認しあい、職員や家族、主治医等のチームの気づきを反映させながら、また要望や変化が見られない場合でも実情に即し、或いは予防的に対応していくための見直しを概ね1ヵ月に1回行い、計画書を検討している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>職員として看護師が勤務しており、医療連携体制を実施しているので、早期にホーム内で医療処置を受けながら生活を継続したり、家族の同意等が必要な受診時以外は車イスでの通院の付き添いなど、本人や家族の状況、希望に沿って柔軟に対応している。</p>		<p>現状ではデイサービスの指定を受けていても実施していないので、職員間で話し合い、ホームへの入居前にデイサービスを利用してホームの雰囲気徐々に慣れていけるようにする等、事業所の多機能性をさらに活かす工夫をすれば良いのではないか。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1階に併設されている医療機関の医師が主治医となっており、主治医とは夜間でも気軽に相談できる関係にある。また特定の疾患がある人はホーム利用前からのかかりつけの医師にも受診している。また、通院介助の方法や受診結果の報告については入居時に家族と話し合っており、主治医に受診した時は基本的には主治医が家族に直接説明している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年3月、ホームの看取りに関する指針をつくり、重度化した場合の対応について利用者、家族の同意をもらっている。利用者の状況、家族の希望等が変われば家族や職員、主治医等のチームで話し合い、チーム全員で方針を共有している。ホームでの看取りを希望する人には、主治医が判断の上、チームで話し合いホームでの看取りの支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	交換したおむつは新聞紙に包んでさりげなく居室から持ち出し、トイレ誘導時の声かけや日々の暮らしのケアの中でプライバシーを損ねないように留意している。職員には退職後も秘密の保持を課している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他の人とあまりかわりたくない人は居室で、また、眠れなくてお腹のすいた人には早朝に食事をしてもらう等、利用者の生活のリズムが異なるので、1日の基本的な流れはあるものの時間を固定せず、利用者が主人公となって暮らせるよう支援している。また、職員は利用者から話しかけられたとき「待ってね」と言うことは可能な限り言わないよう利用者に合わせていくケアを心がけている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>時には料理の本を見てもらい、希望の献立を聞きだしている。食材については基本的には食料品店から配達してもらっているが、時には利用者と共に食材を買いに出かけている。調理、後片付けは出来る人が職員と一緒にいき、職員も毎食同じ食事を一緒に楽しんでいる。利用者が嫌いな献立の時は別のものを用意したり、また利用者の咀嚼力に応じた調理法の工夫等が行われている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>その日の利用者の状況を踏まえた上で、その時々の利用者の希望を大切にいつでも入浴できるよう支援している。また、異性介助、羞恥心等で入浴を嫌がる人に対しては、馴染みの職員が衣服の着脱を介助したり、一緒に入浴したりして入浴が楽しめるようにしている。浴槽の湯につかる体制のとれない利用者については、希望に応じて他の資源を利用する等して支援する意向がある。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとりのこれまでの生活や、日々のかかわりの中から役割や楽しみごとを見出し、朝刊とり、屋上での洗濯物干し、いけばな、料理、ピアノを弾くなどの役割や、楽しみごととしてもらっている。また、やりたくてもできない人、例えば食器を拭きたい人には、軽くて割れない拭きやすいものをさりげなく用意するなどの工夫をしている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その時々体調に気を配りながら、天気や状況や利用者の希望に応じて、近くでは家庭菜園や和菓子屋さん、天気の良い日は公園や馴染みの喫茶店、薬局等へ出かけ、外出を楽しんでもらうよう支援している。また、歩行が困難な人も、車イスで乗車できる車で、ショッピングセンター等へ出かけている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>全ての職員は鍵をかけることの弊害を認識し理解している。ホーム玄関は施錠しておらず、2階ユニットは職員がドアのチャイムで利用者の外出の気配を察知した時は階段を利用し、とめずにさりげなく付き添って外出している。現状では各ユニットに通じるエレベーターは鍵で開閉するようになっている。</p>		<p>ホーム内ではエレベーターの鍵を外すことを想定した話し合いがもたれている。今後も定期的に話し合いの機会を持ち、やむなく鍵を使用する状況の確認と代替策の可能性を検討していくことが期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>水害については、殆ど心配の無い立地条件にあり、火災等については防災マニュアルを作成し、年1回消防署と連携して消火器の使い方や、避難誘導消火訓練を実施している。とくに夜勤者には、必ず参加させ夜間を想定した訓練を実施している。</p>		<p>さらに、共同訓練の実施等地域の人びとの協力を、自治会や運営推進会議で呼び掛けていくことが望まれる。非常用食料や備品の用意をするとより安心につながるのではないか。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事量、水分量についておおその摂取量を把握している。食事量については、茶碗の大きさ、食事のタイミング、調理法等で、また、水分量については、各種ジュース、スポーツドリンク、ココア等一人ひとりの好みのもので水分が十分摂取できるよう工夫している。</p>		<p>時には、専門的な立場から、栄養のバランス、カロリー等をチェックしてもらいたいのではないか。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂の壁には利用者合作の絵、有名画家の絵、ボランティアの協力による絵手紙等が飾られ、廊下には季節の花が生けてあり、玄関の下駄箱も家庭的なもので生活感、季節感を取り入れる工夫がなされている。1階から2階への階段はコンクリートの壁面のため、工事等にあわせて絵画用フックの設置等を検討している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、好みのベッド、日本人形、ドイツ人形、お孫さんや本人の若いころの写真等が飾っており、持ち込まれるものが少ない人には、職員が壁に毎年のお誕生会の写真を飾り付けるなどして落ち着き、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		

 は、重点項目。